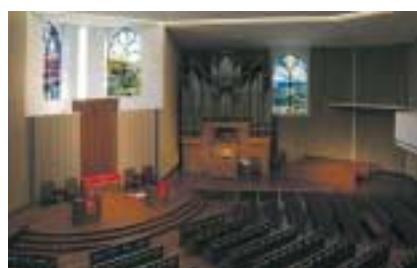


Wesley Hall News

第77号 2003年9月12日 発行 青山学院宗教センター(ダイヤルイン03-3409-6537) 編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会



目 次（特集：ジョン・ウェスレー生誕300年・相模原キャンパス開学）

- | | |
|------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| ○ 説教 「完全なものとなりなさい」 深町 正信...2 | ○ 青山学院資料センター所蔵のキリスト教
貴重文献・史料 その4 氷賀 健生...10 |
| ○ 特集 ウェスレー生誕300年記念の展示について
..... 東方 敬信...4 | ○ キリスト教図書紹介 古川 武治...12 |
| ○ 特集 Sing lustily and with good courage.
—ウェスレーと音楽— 那須 輝彦...5 | ○ 私の教会 久 洋子...13 |
| ○ 特集 勝負はこれから —相模原キャンパスでの
キリスト教活動— 廣瀬 久允...6 | ○ 宗教センターだより 14 |

説 教

「完全なものとなりなさい」 マタイによる福音書 第5章48節

深 町 正 信



1、ジョン・ウェスレー生誕300年祭

今年はジョン・ウェスレー生誕300年の記念すべき年であります。去る6月21日から23日まで英国のオックスフォード大學のリンカーン・コレッジとクリスト・チャーチ・コレッジを会場として記念礼拝、記念演奏会、シンポジウム等が行われました。私は青山学院を代表して正式に招待され、それに参加してきました。まず21日の夜、「修復されたチャペルの南北ステンド・グラスの献納式」のときに、ラングフォード学長はチャペルのステンド・グラスの修復に多大な貢献をした青山学院に深く感謝すると述べて、感謝のプラグをチャペルの入り口に付けると説明され、青山学院のために祝福を祈られました。その後、リンカーン・コレッジ聖歌隊によるウェスレー兄弟の贊美歌の奉唱がありました。

2、ジョン・ウェスレーの生い立ち

ジョン・ウェスレーは英國国教会 (CHURCH OF ENGLAND) の司祭サムエル・ウェスレーを父として、母スザンナとの間の第15番目の子として1703年に誕生しました。第18番目に生まれたチャールズは、オックスフォードの学生時代から兄ジョンと一緒に活動し、長じて英國の贊美歌の父と呼ばれるほど、沢山の信仰の歌を遺しています。ジョンは6歳の頃のある夜、エップワースの牧師館が放火され、燃える牧師館から危機一発で救い出されるという災難に逢いました。この体験が後に彼の強い召命觀に影響を与えました。ジョンはよく「わたしは火事場から取り出された焼けぼっこいである」と語り、主の使命を果たすために救い出された、と証しています。

彼はチャーター・ハウスで学んだ後、オックスフォード大學のクリスト・コレッジに入学しました。1725年に、彼は英國教会の聖職になる決心を与えられます。そして、その準備としてジェレミー・テイラーや「清潔なる生と死の規則と実践」、トマス・アケンピスの「キリストに倣いて」、そしてウィリアム・ロウの「キリスト者の完全」を読み、それまでの九分通りのキリスト者ではなく、眞のキリスト者となることを求めて、眞剣な信仰生活を始めました。1729年に、ジョンはオックスフォード大學のFELLOW (個人的指導教授の意)となりました。そして、弟チャールズたちの始めたホーリー・クラブの指導者として脚光を浴びることになりました。

「ホーリー・クラブ」で学生たちは聖書を学び、規則正しい聖餐式の実施、大學の学びの予習と復習、朝祷と晩祷を忠実に守る生活を基盤にして、炭鉱街の貧しい子供たちの勉強会、刑務所待遇改良運動、貧しい人々への奉仕活動等を熱心に行いました。メソジスト (METHODIST) という名前はこのような学生たちに対するあだ名として始まりました。几帳面屋さんとか、方法論者、つまり、彼らは何をするにも几帳面であり、形式主義者であるという悪口がありました。ジョンとチャールズ・ウェスレー兄弟はこの学生運動の指導者として活躍した訳です。

その結果が、オックスフォード大學の先輩でアメリカのジョージアの総督であったオグレソープの耳に入り、彼らがジョージア伝道に出掛けるきっかけとなりました。しかし彼はその伝道で様々な理由で挫折を経験して、ジョージアか

ら帰国します。1738年5月24日、ジョンは神の前に真に不十分な人間であることを強く知らされます。その日、アルダスゲートのある集会に出席して、司会者が朗読するマルチン・ルターの書いた「ローマの信徒への手紙序文」を聞いているうちに、その一語、一語がまさに自分のためであった、と強く感じました。彼はその日の日記に「わたしの心が不思議に温まるのを感じた」と記しました。その時、彼は、キリストの十字架の贖いにより、自分の罪が赦されたということを深く心に刻まれ、新しい人間に生まれ変わったのです。このジョン・ウェスレーの「アルダスゲートの回心の出来事」は彼に人生の新しい勇気を与えていました。

1739年には英国教会の禁じていた野外説教を始めました。彼は目前に迷い、失われつつある多くの人々の魂を気遣い、ついに教会の禁止を破つて、キリストに福音を語り始めたのです。その後のジョンの伝道の生涯は驚くべきもので、記録によれば、約4万回の説教をなしています。1791年に、ロンドンのシティー・ロードで87歳の信仰の生涯を終えましたが、最後に「最も素晴らしいことは、神がわたしと共にいてくださることである」との言葉を遺して、平安のうちに召天しました。

3、聖書の人ジョン・ウェスレーの信仰

ジョン・ウェスレーは、人は誰でも信仰により、神の恵みにより義とされ、救われる、ということを教えました。又、人は誰でも、信仰によって聖化されることを熱心に伝えました。神の賜物は地上で、今与えられ、その聖化を達成することが出来るという理解でした。

主イエスはマタイによる福音書5章48節「だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全なものとなりなさい」と語られました。この「完全」という語はギリシャ語で「テライオス」と言います。この語は「テロス」という名詞から出来た形容詞であります。「テロス」

という語は目標、目的、終着点を意味しています。すなわちすべてのものはその創られた目的を果たすとき、完全であるということです。人間が創造され、この世に送り出された目的を果たすときに、その人は「テライオス」つまり、「完全な人である」という意味になります。

創世記1章27節によって、人間が創造されたのは、神の栄光を反映するためであります。この神の特質はマタイによる福音書5章45節から48節に示されているように、あらゆるものと含めて、等しく無条件に愛することにあります。

したがって、私達が隣人を愛し、他者を赦し、無条件に人を愛し続けることを求めるならば、聖書の示す完全な人となるのであります。完全とは、愛における完全であります。キリストの恵みへの信頼によって、私たちは神の像を取り戻します。それは又、主イエスの言われた「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なる神を愛する」ということと、「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイによる福音書22章37節から39節)という、この二つの言葉に尽きることが、ウェスレーの言う「愛における完全」であります。そしてそれは自力によらず、神の恵みによって可能であると、ウェスレーは聖書に基づいて証したのであります。しかし、その完全は人の絶対的無謬ということではありません。絶対的完全というものは神のみにあります。人間は無罪にはなり得ないのであって、いわば絶対的完全であり得ないです。人間はただ信仰によって神の愛に満たされるとき、はじめて罪の衝動が、もはや及ばなくなるのです。

青山学院はジョン・ウェスレーを祖として結成された米国メソジスト監督教会の信仰と祈りと援助により誕生した学校ですが、この記念の年にあたり、ウェスレーの信仰と遺産に目を向けて、聖書に深く学びたいものです。

(院長)

特 集：ジョン・ウェスレー生誕300年

ジョン・ウェスレー生誕300年記念の展示について

東 方 敬 信

青山学院の正門にジョン・ウェスレー像が掲げられているにもかかわらず、日常的に人々が彼について意識することが少ないと考えて、私たちは生誕300年を機会に多くの教職員・学生、生徒たちにジョン・ウェスレーについて知つてもらおうと展示を考えました。新年度になって急遽、院長室に大学文学部の池田稔教授、中等部美術の筒井祥之教諭、宗教センター田中健夫事務長と宗教部長の東方が集まり企画実施に向けて動き出しました。

まず、この記念行事は、青山キャンパスの緑の銀杏並木に囲まれたメイン・ストリートに生誕300年を記念する「フラッグ」を掲げ、さらに相模原キャンパスのメイン・ストリートにも同じ綺麗でシンプルなフラッグを目立つように掲げました。このことによって多くの人々が青山学院の建学の精神について関心をもってくれるでしょう。

またガウチャー記念礼拝堂の入口にジョン・ウェスレーの大型の肖像画が掲げられています。その



絵はウェスレーの晩年の人物像で最も有名なものひとつです。この肖像画をモチーフにして、私たちは生誕300年記念カードを作成しました。表紙にはウェスレー

の肖像画と青山学院がオックスフォード大学のクライスト・カレッジに寄付した

ステンドグラスが配置されています。そしてそのカードの中をひらくと、「大いに獲得し、大いに節約し、大いに捧げなさい」というウェスレーの経済倫理の言葉と同時に、彼が教育へ多大の関心を寄せていた証拠になる「キングスウッド・スクール」の美しいキャンパスと建物が見られます。

さらに、青山キャンパスの総研ビルの入口に彼の年表と展示があります。彼がイギリスの17世紀という近代社会形成にとって重要な時期に生まれ、どのような学問を習得しどんな経験をへて英国を精神的に救済するような運動を起こしたかが手に取るように分かります。皆様、どうぞご覧になってください。

(学院・大学宗教部長)



【青山キャンパス 総研ビル入口】

Gain All You Can, Save All You Can,
and Give All You Can!

「18世紀の英人たるジョン・ウェスレーは、ジョン・ジョンソンによると、世界最貧困な人たる者たちがクリスチヤンへの救済を受けるべきである、との意見をもつた。」

著者：ジョン・ジョンソン著、吉川弘文館訳

出版社：吉川弘文館

著者：ジョン・ジョンソン著、吉川弘文館訳

特 集：ジョン・ウェスレー生誕300年

Sing lustily and with good courage. — ウェスレーと音楽 —

那須 輝彦



メソディスト運動は、教会と無縁だった労働者たちに信仰の火を灯さんとジョン・ウェスレーが行った野外伝道旅行に端を発する。したがってその音楽も、聖歌隊のための凝った典礼音楽ではなく、集会参加者全員が歌う讃美歌がおのずと中心になった。

ジョンの弟で詩才に富むチャールズ・ウェスレーが作詩した讃美歌は、大衆伝道の最大の武器だった。

実際、メソディストこそ近代会衆讃美歌の生みの親といつても過言ではないのであって、事実、日本の『讃美歌』にも、98番「あめにはさかえ」、352番「あめなるよろこび」といった名作をはじめとして、チャールズの詩が14作も収録されている。

チャールズの詩は個人の感情に強く訴えるものでしかも語呂がよかつた。調子のよいメロディにのり易い——ここが肝心。ジョンは、当時英國国教会で歌われていた会衆詩編歌の莊重で四角四面な旋律を嫌っていた。しかつめらしい、いかにも「教会の」音楽では大衆の心は掴めない——と直感したのだろうか。そして大胆にも、チャールズの詩にオペラのアリアや酒場の俗謡のメロディを当てたのである。

譜をご覧いただきたい。チャールズの詩がキリストの再臨を描く。「見よ！主が軍勢を従えて降りて来られる！罪人のためほふられた方が！幾千万の天の軍勢、勝利の声を増す。ハレルヤ！キリストが統べに来られる！」。その旋律たるや、ポンポン跳躍し、装飾的な前打音はあるわ、付点リズムでスwingするわ、トリルはあるわと、確かに景気よい。それもそのはず、遊園で使われていた舞曲に、よく似た旋律があるという。『讃美歌第二編』54番の曲であるが——『第二編』に回されているところがこの曲の性格を物語つていよう——、54番では出だしのドーミソ（移動ド）を1、2、3、4と4拍で振るのに対し、原曲は大きな

2つ振りだからもつと軽快なイメージである。そして実際メソディストたちは、オルガンもない野外で、みな起立し、活気あるペースで歌ったという。1761年の讃美歌集の「歌唱の指針」第4条にジョンいわく、「意気揚々と歌いなさい。半分眠ったかのようにならず、元気に声を上げなさい。Sing lustily and with good courage. Beware of singing as if you were half dead, or half asleep; but lift up your voice with strength」。

野外で民衆が軽薄な讃美歌を歌う光景は、聖堂で「敬虔な」歌を歌ってきた保守派にはショッキングで、「猥歌変じて聖歌になる」などと批難の声が上がった。しかしハートフルなメソディストの歌唱に引かれる者は後を絶たなかつた。1787年に、ある英國国教会の聖職者はこぼしている。「1人が説教で国教会から引き抜かれる間に、10人が音楽で誘惑される——」。そしてついには「歌う」がメソディストの形容詞となり、「シンギング・メソディスト」とまで呼ばれるようになるのである。

(大学文学部助教授)

The musical score consists of three staves of music in common time, treble clef, and G major. The lyrics are as follows:

Lo, he comes with clouds descend-ing, Once for fa-vour'd sin-ners slain!
Thou sand thou sand saints at tend ing Swell the tri-umph of his train.
Hal-le-iu-jah, hal-le-lu-jah, hal-le-iu-jah: God ap-pears on earth to reign.

特 集：相模原キャンパス開学

勝負はこれから —相模原キャンパスでのキリスト教活動—

廣瀬 久允

新キャンパスの献堂式は3月29日に挙行された。新学期早々には、予想外の困難にも遭遇したが、何とか前期を無事終えることができた。

学院に関する、より多くの方々に、ぜひ共実際にこの地に足を踏み入れて見て頂きたいと願っているが、相模原キャンパスでのキリスト教活動の一端なりを紹介すべく、大学宗教主任、学生三団体代表、および宗教センター相模原分室長に依頼して報告と展望を記していただいた。多少の重複はご容赦いただいて、多彩な活動の一部分なりともご理解いただければ幸いである。

建物はでき、すでに活動は始まっているが、これをさらに充実して行くために、本格的な勝負はこれからだとの感を強くしている。

(大学宗教主任)

〈新チャペルにおけるキリスト教活動〉

嶋田 順好

恵みと祝福のうちに相模原キャンパスで過ごした最初の1学期の歩みを終えることができました。新キャンパスにおける現在のキリスト教活動は、まさに「恵みと祝福」としか表現のしようがないほどに充実しています。事実、毎日守られている礼拝には、ほぼ200名前後の学生がコンスタントに集まっています。チャペル・ウィークでなくても、チャペルに入りきれないほどの学生が集うことしばしばでした。

その最大の理由は、月曜～土曜まで毎日欠かさず1時限と2時限との間に独立した30分の礼拝時間帯を確保できたことがあります。また、緑の芝生に映える白亜の美しいチャペルが、キャンパス全体の中核的シンボルとして置かれ、講義棟と事務棟を行き交う学生達の動線の只中にあって、自ずと学生達の足をチャペルへと赴かせる結果になっているのです。さらに、チャペル内部に足

を踏み入れると、ダークブラウンとアイボリーのしつとりと落ち着いた空間のなかに、ステンドグラスから洩れてくる名状し難い光がさんざめき、祈りの思いへと心が高くあげられていきます。祭壇部分を会衆席が三方向から取り囲む集中構造が採用され、説教壇と会衆席の距離が一段と近づいたこともあって、説教者・司式者・奏楽者・聴衆の一体感が、これまで以上に高まったことも礼拝を充実させる大きな要因となっています。

音響面でも特段の配慮がなされ、残響時間が大きくなつたことにより、厚木から移設したマルクーセンのパイプオルガンが、同じオルガンとは思えないほど、豊かな響きを奏でるようになりました。事実、厚木ではほとんど見られることのなかつた光景ですが、礼拝後、すぐに退堂しないで、最後までパイプオルガンの後奏に聞き入る学生達も増えてきました。なかにはその素晴らしい響きに心惹かれ、オルガニストに、曲名やオルガンの構造、演奏法まで尋ねる学生もいます。

また、礼拝堂に隣接した吹き抜けのホールは、片側が全面ガラス張りで、開放感溢れるくつろぎと円居の場になっています。ここには学生情報端末も置かれています。つまり、学生の日常的な営みから切り離されることなく、そのニーズにも応える機能が設置されているのです。その工夫のかいあって、ホールには朝から晩まで学生の姿が途絶えることがありません。このチャペルは、礼拝への集中と学生への開放という一見矛盾する困難な課題を両立させた希有の存在と言えるでしょう。

いずれにしても、礼拝充実こそがなによりキャンパス・ミニストリーの始めであり、終わりです。礼拝が豊かにされれば、自ずとACF、聖歌隊、ハンドベル・クワイアの活動も充実し、宗教センター全体も活性化していきます。主の導きのもと、諸教会の牧師先生や教職員の皆さん

理解と協力も得て、このうねりがこれからも着実に豊かに実を結んでいくように励んでいきたいと思います。

ところで、これまで岡井晃先生のご奉仕のもと、フォーカス・グループ活動の一環として行なわれてきたパイプオルガン講習を発展的に解消し、後期からはウェスレー・チャペルとガウチャー記念礼拝堂に設置されているパイプオルガンを用い、「オルガニスト養成講座」を開講することになりました。本学のオルガニスト6名の協力のもと、18名の受講者を募集したところ、なんと100名近くの応募者があり、実際に競争率が5倍超となる狭き門になってしまいました。あらためて学生たちの教会音楽に対する関心の高さを思い知らされたことでした。この新しい試みを通して、福音の種が豊かに蒔かれ、キャンパス・ミニストリーが一層充実したものとなっていくことを心から願うものです。

この度の相模原キャンパス移転・建設にあたり、理事会、大学執行部の皆さん、ハード面のみならず、ソフト面でも建学の精神を深く受け止め、その精神をキャンパスに具体的に根付かせるためによき理解を示し、惜しみなく協力してくださったことに、あらためて深い喜びと感謝を覚えるものです。青山学院大学が、スクーンメーカー、マクレイ、ソーパーの三宣教師によって伝えられたキリストの福音を今日もなお大切に継承し、育んでいくことができる幸いを思わずにはいられません。くしくもジョン・ウェスレー生誕300年を祝うこの年に、新キャンパスを与えられたことを思う時、誰がこのくすしき神の摸様を讃えずにいられるでしょうか。

(大学宗教主任)



[礼拝堂内部：パイプオルガン・ステンドグラスは厚木キャンパスより移設]

〈大 学 聖 歌 隊 の 活 動〉

平 井 傑

皆さんこんにちは。青山学院大学聖歌隊です。私達の主な活動は学内における礼拝での讃美奉仕で、青山学院の教育方針である、神の前に真実に生き、愛と奉仕の精神をもって毎年約30名の隊員で活動しています。練習は、土台となる相模原での火曜日の昼休み練習に加え、水・土曜の青山での練習が毎週あります。前期を終えて今年度は相模原キャンパスでは以下のような活動をしてきました。

まず、3月の相模原キャンパス完成を記念しての相模原キャンパス献堂式。広大な敷地の中に厚木ウェスレー・チャペルのパイプオルガンやステンドグラスが移された相模原ウェスレー・チャペルで行われました。まだキャンパスが開かれていなかったこの時期にチャペルがいっぱいになるほどの多くのの方々がお集まりになり、そこで1曲奉仕をしました。4月になり1年生が入学してくると、1年生が参加するキリスト教概論オリエンテーションの場でハンドベル・クワイア、ACFとともに団体の紹介という形で1曲奉仕し、その約1週間後、新入生歓迎礼拝での奉仕がありました。6月には入隊した1年生のデビュー、相模原礼拝での1曲奉仕があり、4月からの2ヶ月間で練習してきた歌を歌いました。

後期になると、青山での活動はもちろん、相模原での活動の機会も増えます。初めに、10月に、相模原祭開会礼拝での奉仕が予定されています。新キャンパスという事もあり、今までの厚木祭とはかなり変わったものになる事が予想されます。そして前期にもあったように後期にも一度相模原での礼拝奉仕があり、また、まだ日程は決まっていませんが相模原にあるスクーンメーカー寮での奉仕も行う予定です。11月にはクリスマス・ツリー点火祭。クリスマス・ツリーに明かりを灯す日で、夕方の薄明かりの中1曲奉仕します。気が付くといつの間にか真っ暗になっており、参加者全員に配られるロウソクの火が暗闇の中に浮かび上がる光景は荘厳で幻想的なもので、一度は参加してみないと絶対に後悔する程の美しさです。青山学院生はもちろん、一般の方も多数参加されます。12月には聖歌隊が最も関係深いと思われるクリスマス礼拝が青山・相模原各キャンパスで別の日に行われます。



〔チャペル内ロビー〕

これも参加者全員に口ウソクが配られ、揺らめく美しい炎の中、厳かに礼拝が行われます。クリスマスの時期は非常に活動が多く、またそれぞれの行事がどれも美しい事もあり、聖歌隊とし

ては一番充実していると感じられる時期です。

以上のように青山だけでなく相模原でもこれだけ多くの活動があります。相模原キャンパスが開学し、これから様々な新しい試みがあると思いますが、相模原キャンパス、そして青山学院のますますの発展を目指すような活動をしていきたいと考えております。

(相模原副隊長 法学部2年)

〈ハンドベル・クワイアの活動〉

松木 貴司

皆さんこんにちは、青山学院大学ハンドベル・クワイアです。私たちは現在隊員19名で、そのうちの1~3年生の14名が主体となって年間の演奏活動に参加しています。

はじめに、相模原での練習は相模原キャンパス所属の1~2年生で週3回程度、昼休みにチャペル内の集会室1で行っています。主に、基礎打ちと呼んでいるハンドベルの基本練習をしています。それでは今年度の活動を参考にしながら、相模原での年間活動を順に追って紹介していきたいと思います。

まず、今年は3月に行われた相模原キャンパス完成を記念する献堂式の中で1曲演奏奉仕を行いました。開学前の時期ながら、沢山の方々のご来場がありました。

年度初めの4月の行事としては、新入生オリエンテーション期間中に行われるキリスト教概論のオリエンテーショ

ン内での演奏があります。今年も聖歌隊、ACFと共にキリスト教関連団体紹介の形の中で1曲演奏を行いました。

新入生が入隊してからは、5・6月に相模原での学内礼拝で演奏奉仕を行っていて、奉鐘の形で一曲演奏します。新入生が演奏デビューするのは、6月の礼拝奉仕です。1年生にとっては、記念すべきハンドベル・クワイアの隊員としての第1歩を踏み出す行事になっています。

主に学内礼拝や学外の教会での演奏奉仕が活動の中心である私達ですが、大学から依頼のある学校主催の行事での演奏も行っています。今年は、6月に行われた「AGU受験相談会」において、相模原キャンパスのチャペル内にある礼拝堂でミニコンサートを行いました。

後期に入ると相模原での演奏機会も多くなります。まずは10月に行われる相模原祭での演奏奉仕。昨年までの厚木祭では開会礼拝内での演奏奉仕をおこなっており、今年は相模原キャンパス開学式での演奏が予定されています。

今年から相模原キャンパス内に移転したスクーンメーカー寮での演奏奉仕も11月頃に行われます。寮での演奏奉仕は例年行つていて、寮生の皆さんと夕食・夕拝と共にした後、数曲の演奏を行わせてもらっています。

そして、相模原キャンパスでの活動として最大のものが、今年は11月28日に行われるクリスマス・ツリーライト火祭です。クリスマス前のアドベントを皆で祝い、チャペルの敷地内にあるクリスマス・ツリーに光を灯します。夕闇の中、大変幻想的な雰囲気がチャペルの周囲を包みます。例年では、私達はそのプログラムの中の前奏・後奏などを担当して演奏を行っています。

一年の締めくくりは、12月に行われるクリスマス礼拝です。普段行っている礼拝奉仕と同様に、礼拝内で奉鐘を行います。これで相模原での年間活動は最後となり、それと同時に、私たちの1年間の活動もほぼこれで終了となります。

最後になりますが、私達は相模原キャンパスでもこのように様々な機会で演奏を行つてるので、是非、実際に足を運んで私たちの演奏を聴きに来てください。お待ちしています。

(相模原支部長 史学科2年)

〈青山キリスト教学生会（A・C・F）の活動〉

久保 哲哉

私たち「青山キリスト教学生会」は青山学院大学唯一の公認キリスト教学生団体で、Aoyama Christian Fellowshipの頭文字をとって通称ACFと呼ばれています。会員数は約60名で、クリスチャンとそうでない学生の割合は6:4といったところです。幼いころから教会に通っている者や、大学に入って初めてキリスト教に触れる者、または親が牧師の者など、個性豊かな学生の集まりとなっています。今年も去年に引き続き「キリスト教っていいね☆」と思えるACFを目標として活動をしています。

主な活動として、水曜日と土曜日に青山キャンパスの間島記念館にて定期活動を行っており、バイブルクラスと称して聖書を学んだり、賛美集会をもって神様を賛美することの大切さを知ったり、ともに祈りあい、分かち合いの時をもつなどしています。その他にもクリスチャンの先生をお招きしてお話を聞いていただいたり、外部から講師の先生をお招きして学生に向けての伝道のために講演会を行ったりしています。月曜日の昼休みに相模原キャンパスではチャペルにて、青山キャンパスでは間島記念館にて聖書を読み、ゴスペルや讃美歌によって神様を賛美し、ともに祈りあうといったことをしています。その他にも相模原キャンパスでは金曜日に、青山キャンパスでは月曜日と木曜日にバイブルクラスや、祈りあいの時をもっています。今年は全会員の約半数が1年生ということもあり、1年生がたくさん活動に参加しており、相模原での活動がより活発なものとなっています。

また課外活動として、教会に行った事のない人に、教会とは一体どのような所なのかを知つてもらうために渕野辺周辺の教会を訪問し、牧師先生に話を聞いていたり、毎年ボランティアとして「光のこどもの家」という養護施設を訪ね、こども達とふれ合いつつ、バザーの手伝いをしています。また、毎年学園祭の収益金をこの施設に寄付させていただいている。そして年に四回合宿を行い、会員同士の親睦を深めつつ聖書を学び、互いに証しを聞き、祈り合いの時、分かち合いの時をもつ

ことによって、クリスチャンもそうでない学生もキリスト教に対する理解を深め、信頼関係を築いていくことができると思います。

今年は相模原キャンパス1年目ということで多くの1年生に恵まれました。そのため、相模原での活動はとてもにぎやかなものになっています。そしてそれに引っ張られるように、ACF全体が今まで以上に活発になっているのを感じます。これまで以上に楽しく、聖書をよく学び、よく祈り、賛美をしていくことで、より神様を身近に感じられるならば幸いです。これから私たちの活動をお見守り下さい。

（相模原支部長 経済学部2年）

〈宗教センター事務室より〉

尾崎 誠

相模原キャンパスの朝は、毎朝8時50分に鳴り響くウェスレー・チャペルのカリオンの音で始まります。礼拝は、月曜日から土曜日まで午前10時30分から30分間行われ、大学宗教主任、宗教委員の先生方また各教会の牧師先生に来ていただき、神様のみ言葉に耳を傾け、礼拝堂いっぱいに響きわたる讃美歌の中で、恵みと喜びにより守られています。チャペルはいつも開けています。多くの学生が毎日見学に来ますし、一人で静かに祈りたい学生も来ます。このような状況が続くように、また多くの学生達がこのチャペルに集い、神様の愛を知り、目に見えないものが見えるようになればと思いながら学生と接しています。

（相模原分室長）



青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料 その4

－明治初期・中期の讃美歌について－

氣賀健生

前号まで3回に亘って青山学院資料センター所蔵の稀覯本聖書の御紹介をして参りました。今回は当資料センターの所蔵する明治初期・中期に出版された讃美歌集について紹介を致します。

青山学院が北米メソジスト教会派遣の宣教師によって創立された学校であることから、当然のことと言えば当然ながら、初期のメソジスト系の讃美歌が資料センターにも数多く所蔵されています。

さて、どちらかといえば稀覯本に属するような珍しい讃美歌を紹介しましょう。まず、1907(明治40)年版ローマ字讃美歌、Sambika、教文館及び警醒社発行。これは極めて珍しい編集で、特徴的なことは、各讃美歌とも歌い出しの2~3小節のみ譜がついています。皮表紙小型の立派な装丁で、Aunion Committee編となつてますが、この委員会なるものがどのようなものか不明です。全459曲に十戒、使徒信条、主の祈りすべてローマ字、巻末にこれもローマ字で、KimigayoそしてBengijo koko ni osamu, honsho no uta ni arazu となっています。この「君が代」と「便宜上此處に收む、本書の歌に非ず」という但し書きは、明治30年代頃の讃美歌から見られ、昭和20年の敗戦まで続きます。これがこのようなかたちで讃美歌に收められるようになつたきさつについては、未だハッキリわかつていません。明らかになつたとき、このシリーズで報告しようと思っています。ローマ字讃美歌はもう一冊あり、1887(明治20)年Tokyo版ですが Kirisutokyo Seikashu(Hallowed Songs)のタイトルです。Methodist Episcopal Mission for the use of Japanese Churches, Translated and published by C.S.Eとなっています。このC.S.Eが何をさしているか今のところ未調査です。小型、楽譜なし、245曲を収録しています。この他超稀覯本としては、「署譜附基督教

聖歌集」があります。耶蘇隆生1895(明治28)年第四月、米国加州サクラメント府日本人美以教会内、出版部紙版印行とあって、ガリ版印刷の日本語版です。247曲、頌栄および主の祈と十戒が收められ、M.C.Harrisのサインがあります。M.C.Harrisは初期の北米メソジスト教会の日本ミッションの監督であった人物で、青山学院(当時の東京英和学校)キャンパスの宣教師館に住み、その墓所は青山墓地にあります。次にこれも極めて珍しいものを二つあげておきます。いずれも英語版です。“Hymnology in Japan” by Rev. Allchin, Geo, Osaka, “Its past history and the feasibility of Having a United Hymnal”とあって、著者の署名入で、Presented the Aoyama Theological School, 10. VII, 1932となっています。39頁の小さなですが、オールチンは日本の讃美歌史上重要な人物です。もう一つは、“The Church Hymnal for Churches and mission schools”であり、J. L. Cowenの編で162曲、歌詞のみ、全部英語です。

次に「譜附基督教聖歌集」。耶蘇隆生1886(明治19)年5月再版、美以教会雑書会社、日本横浜印行とあります。初版はいつであったか確かなことはわかりません。184ページ、247曲が收められ、10曲の頌栄が含まれ、For use in Divine Worshipと書かれ J. C. Davisonの序文(英文)がついています。彼はマクレーと共に日本に派遣された最初の宣教師の一人で日本の讃美歌集成に多大の貢献をした人物であつて、彼が最初に編集したといわれる1877年初版の讃美歌が本書の初版であると考えられますが、残念ながら、その版は当資料センターには保存されていません。なお同様の「基督教聖歌集」があり、これは和とじ、帙入りで3部、16.5cm×12.5cmの大きさでありますが、発行等全く同じです。

この他、ほぼ同様のものが数十冊資料センターには所蔵されていますが、明治二十八年七月改正増補とある「譜附基督教聖歌集」は日本メソヂスト出版舎とあり、讃美歌改正委員会となっていて、著作者小方仙之助、J.C. Davison、山田寅之助、発行者本多庸一となっています。即ちこの頃にはメソジスト派の讃美歌が確立したと考えられます。なお全422曲、の中には君が代も、その他3曲ほど国歌として含まれています。そして1903(明治36)年版以後は全く変わっていません。

さて、日本で初めてのエキュメニカル(超教派)の讃美歌として普及したのが1903(明治36)年版の「讃美歌」でありました。これは浸礼教会、メソジスト教会、一致教会、組合教会、日本基督教会そして基督教会と、当時の主要な教派の代表が集まってつくり上げたものと推定されます。これは1900(明治33)年4月に大阪で開かれた福音同盟会(会長本多庸一)に於て共同の讃美歌の必要性が痛感され、ここで125首が選定され、翌明治34年8月に共通讃美歌として発表されたものと思われます。一体それまでの日本では共通の讃美歌集としてまとまつたものは全くなく、奥野正綱を以て日本の讃美歌の開拓者とするのが普通でした。彼は明治6年に63篇の讃美歌集をつくり、明治16年に123篇を以てその改訂版をつくりました。1888(明治21)年に「新撰讃美歌」と銘うつて60部だけ印刷され、翌々年の1890年11月に「讃美歌」として世に出されたものがエキュメニカルな讃美歌として最も古いのではないかと思われます。これは植村正久、奥野正綱、松山高吉が編纂し、組合、一致教会が中心となり、湯浅治郎がスポンサーとなって一部60銭で市販されました。福音同盟会は計画段階からこの企画に賛同し、これを推しています。エキュメニカルな讃美歌の企画としては一致、組合両教会による計画が既にあり、明治19年に試作として289曲(うち246番以下は頌栄)がオールチンの指導のもとに編集されています。

ところで1903(明治33)年版の「讃美歌」では、多くの讃美歌が既にその後の版のものと変わっていません。459曲(460以下は頌栄)収められていますが、例えば、460「あめつちこぞりて」418「主われを愛す」の如きは、

その後今日まで歌いつがれています。ちなみに当資料センター所蔵本は三代院長小方仙之助寄贈のものですが、空いていいる頁には和歌が書きつけてあり、April 12, 1911~Dec. 4, 1911 Around the Worldとして、小方先生の信仰告白ともうけとれる文章が書かれている点でも大変貴重です。

当資料センター所蔵のもののうちカトリック、正教会、英國々教会関係のものを幾つか紹介します。まず、「日本聖詠」Recueil Cantiques Japonaisで154ページ、全部ローマ字で楽譜附、序文はフランス語で1893年、Tokyo Imprimerie Kyoyekishosha版。聖ベルナデッタ会修道院、ベトレヘムの園の丸印が見られます。欄外にShigo no arisama no utaとあるのはどういう意味でしょうか。もうひとつのカトリック讃美歌はMois de Marieと題してフランス語、ラテン語、日本語の歌詞をすべてカナ書きにしてあります。1911(明治44)年10月28日発行、アンリ・ドマンジェル Demengelle 玫瑰塾発行となっていて、フランシスカンのカトリック聖歌です。

次に大日本正教会翻訳という「連接歌集」(イルモロギイ)を挙げます。これはロシア正教の讃詠歌集と思われ、詠調の文句が並んでいます(譜は一切ありません)。それから「諸祭日唱歌集」というのがあってハリストスと言っているところをみると正教の歌集です。横びらき大型で楽譜の間に詞が並びカタカナで大きな文字が目につきます。御降誕祭、御復活大祭用の讃美歌が並びますが、どこで何時出版されたが全く不明です。

次に「使徒公会之歌」というのがあります。手書き。「原胤昭所蔵本ニヨリ写ス」(増田金四郎)と注があります。原本体裁半紙半裁横被本、木版沢村重雄とあり、聖公会派の訳作と思われ、刊行は明治5年頃、長崎に於て作られ、1877(明治10)年頃刊行されたものと思われます。

まだ珍しい讃美歌がありますが、最早紙面がありません。次号にまわします。ちなみにこの讃美歌の御紹介は本学名誉教授唐津東流氏の協力によるものであり、同名誉教授に深く感謝を捧げるものです。

(大学名誉教授)

シリーズ：キリスト教図書紹介

『子どもに信仰を伝えるための20章』 ジョン・M・ドレッシャー著／福井誠訳（いのちのことば社）

古川武治

私が初等部で教鞭をとるようになって早4ヶ月が経ちました。この間、一番悩んだのが子どもたちにどのような姿勢で指導をすればよいかであります。青山学院初等部のキリスト教信仰に基づく教育とはどのようなものかをいろいろな先生の一挙手一投足を注意して学ばせてもらいました。また本屋に行って本を買って読んだり、宗教主任の先生とお話をしたりと試行錯誤の繰り返しました。またそれと並行して考えていたのが家庭でのキリスト教信者としての生活でした。自分自身がクリスチヤンとしてどのような信仰生活を送ればよいかわからず、家族のために、娘のために、どのような信仰生活を送ればいいか、そして娘にどんなふうに神さまのことを話せばいいのか夫婦でよく会話をしたものです。

そして1学期が終わろうとしていた7月の始め、宗教主任の小澤先生から1冊の本をお借りしました。それがこの本です。この本の題名を読んですぐ、これは私の今の悩みに答えてくれるかもと思いました。家に帰る電車の中で読み進めました。

この本には題のごとく、子どもたちに信仰を伝えるためにはどうすればよいかが書かれてあります。信者としての生活が短い私にとってはもってこいの本でした。

読み始めてまず気づかされたこと、それは神様のことを話すときには時を選びなさいと言うことです。そして次にはこう書いてありました。

「神に対する愛と崇敬に加えて、感謝を教えなさい。食事の感謝にしろ就寝の祈りにしろ、与えられているものに対して神に感謝をささげるよう促しなさい。」

そうだ、私は子どもたちや娘にいつも教えよう、伝えようとばかり考えていましたが、そうではなく、与えられた時を選んで話をしてあげられればいいんだ、そして、神様に感謝する気持ちが自分にはまだまだ足りないんだと感じました。

次に気づかされたこと、それは祈りです。本文にこう書いてありました。

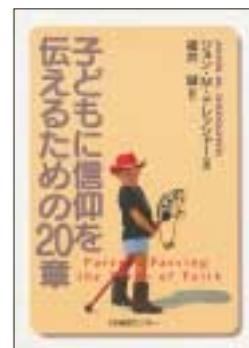
「親は、家庭生活という織物に、祈りを織りこむ機会を見逃してしまいがちです。」

祈りが生活の一部になっているか…。読み進めていくうちにもつと私自身が変わらないといけないことを学びました。

聖書でも祈りと感謝を大切にしなさいと書いてあります。娘や子どもたちに信仰を伝えるとはもちろん大切でしたが、まず私が信者として神様に感謝をし、祈りの時を大切にしようと思いました。

この本を読んで、私は子どもたちに信仰を伝えるということは自分自身も変えられていく素晴らしいことなんだとこの本から学びました。そういう姿勢を娘や子どもたちにも見せたいなと思います。信仰生活とは何かを考えさせられたすばらしい本でした。

（初等部教諭）



シリーズ：私の教会

日本キリスト教団 三崎町教会

久 洋 子



三崎町教会は、1908（明治41）年、アメリカの宣教師たちによって、「中央バプテスト教会」として東京は神田三崎町に誕生しました。そして1941年、日本キリスト教団結成の際に加盟、名称を「三崎町教会」と変更し、今日に至っています。

会堂も1913（大正2）年神田の大火で焼け落ちましたが、その苦難を乗り越えて1916（大正5）年に新会堂を献堂。大正12年の関東大震災、第二次世界大戦の東京大空襲の時にも大きな被害を受けましたが、これを復興し、1974（昭和49）年には、都心伝道にかなった会堂を建設しました。その後、教会周辺にも都市近代化の波が急激に押し寄せ、附近に集散する人々の様相も変わってきたため、「これに対応する教会を」との信徒一同の願いを込めて、1993（平成5）年に現在の近代的な新会堂が獻げられました。

このように長い歴史を経て、現在は山田静夫牧師のもと、主日礼拝には毎週100人前後の信徒が集まり、礼拝を守っています。上記のとおり、都心に位置するということで、地元に住んでいる信徒は少なく、多くは東京・神奈川・千葉・埼玉など方々から時間をかけて通ってきているというのは大きな特徴といえます。それに関連して、地元の子どもたちは減少し、私が子どもの時には幼稚科・小学科・中学科・高等科と独立して盛んに行われていたCS活動も、今では「子どものための礼拝」として1つとなり、分級も幼小科・中高科と統合されました。

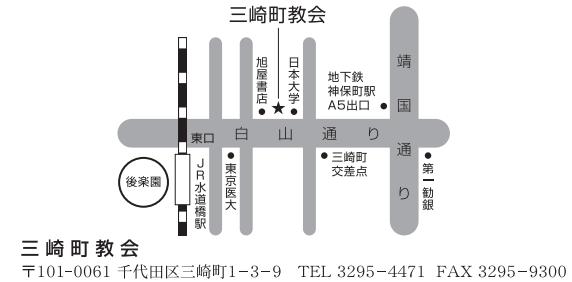
このような現状において、古くからの教会員はもちろん、地域や子どものほか全ての人たちに開かれた教会形成を成立させていくのは、非常に大きな、かつ困難な課題です。日曜日の主日礼拝・子どものための礼拝のほかに、毎木曜日に昼礼拝・夕礼拝を守る／クリ

スマスのキャンドルサービスやチャペルコンサートの開催／花の日の神田警察署・消防署への慰問／毎主日礼拝後の絵本の会の開催、などが行なわれています。

また、神様を中心として、そこに集められた信徒一人一人を大切に、「主に在る交わり」を深めようと、信徒会（青年・婦人・壮年）／聖書研究会／虹の会（教会員懇談会）／朝の光の会（聖書輪読会）／ガリラヤ会（茶話会）／若葉の会（入門者向）など、様々な集会がもたれています。誰かに任せるとではなく、それぞれの立場で自由に、活発に意見を出し合って、考えていく、という意識が、特にこの数年強く根づいてきているように思います。

私は生まれたときからこの教会に通い、育てられました。宗教に不信感を抱き、教会から離れがちになつた中高生時代があり、それでも本当に辛いときに「ここが居場所だ」と感じられたときの安心感は今でも忘れられません。「小さい頃は～だったのに」と言われる度に恥ずかしいような、嬉しいような気持ちになることもあります。神に、人に、支えられていることが感じられる教会だと思っています。

（幼稚園教諭）



宗教センターだより

幼稚園より

1学期も神様のお守りのうちに無事終了しました。ウメやピワ、苗から育てたナス・トマト・キュウリの収穫や、チャボの産んだ卵を使ったホットケーキ・蒸しパン作りを通して自然の恵みを感じ、またカタツムリやカブトムシの飼育を通して、生命の尊さにも触れた1学期でした。

2学期になりました。様々な行事が行なわれていますが、その一つひとつが子どもたちにとって充実した、意味ある経験となるよう、祈りつつ歩んでいきたいと思います。

2学期の主な予定

9月 3日(水)	始業礼拝
4日(木)～6日(土)	年長組軽井沢キャンプ
10日(水)	保護者会
19日(金)	敬老の会
26日(金)	会食
30日(火)	誕生日会
10月 4日(土)	子どもフェスタ
10日(金)	会食
16日(木)	運動会
22日(水)	誕生日会
24日(金)	秋の遠足
11月 14日(金)	誕生日会 会食
21日(金)	収穫感謝祭
28日(金)	アドヴェント礼拝
12月 3日(水)	誕生日会
5日(金)	アドヴェント礼拝「
8日(月)	保護者会クリスマス礼拝
12日(金)	アドヴェント礼拝」 会食
17日(水)	クリスマス礼拝 (教諭 久 洋子)

初等部より

夏休みのそれぞれの「出会い」を体験し、2学期が始まりました。初等部の新校舎建築もはじめました。すべてが順調に進むように祈っている毎日です。

○6月16日(月) こどもの日花の日礼拝

病床にある家族のことを覚えて礼拝を守りました。説教者は、初等部の卒業生で、牧師の北川正弥先生。

○6月24日(火) 召天者記念礼拝

初等部在学中に亡くなられた児童の方々、先生方を覚えて礼拝を守りました。

説教者は、元初等部長、伊藤 朗先生。

○10月22日(水) 聖書週間特別礼拝

聖書のみ言葉に触れることの大切さを改めて考える週間

(宗教主任 小澤淳一)

中等部より

○伝道週間礼拝

6月9日～13日の一週間、聖が丘教会牧師、日本キリスト教団総会議長の山北宣久先生をお招きました。9日「画鋲型人間」、12日「あいであい」、13日「五餅二魚」と題しての楽しく、また深く心に残る信仰への導きを頂きました。11日の礼拝は、国語科講師の大木先生のご体験から感動的なお話を伺い、生きる力を頂きました。

○CF(クリスチヤン・フェローシップ)活動

7月12日(土)期末試験の翌日、有志の生徒6人が清瀬市の救世軍特別養護老人ホーム「恵泉ホーム」に奉仕に行きました。試験の後ということもあって参加者は例年より少なめでしたが、ホームのガラス窓を一所懸命に磨きました。

次は始業式前日の9月2日(火)、学校の掃除をします。

○緑蔭キャンプ

7月22～24日、軽井沢の高等部追分寮で今年のキャンプは行われました。初日は、中軽の星野でネイチャーオッティングをしました。鳥の声を楽しみ、猪が通つたあの道に驚きました。二日目は、ビデオを見ながら、青山のスクール・モットーの聖句「地の塩、世の光」について深く学びました。午後は雨でしたが、追分宿の旧道を歩きながら、日本の歴史に思いを馳せました。夜は楽しいゲームや静かなキャンドル・サービスで心満たされました。

○秋の教職員修養会

9月22日(月)。秋は例年、キリスト教教育について学んでいますが、今秋は大学の佐伯胖教授をお招きしてお話を伺います。中等部生たちの健康で豊かな成長のために、教師たちが学びます。

(宗教主任 石丸泰樹)

高等部より

○特別礼拝

高等部では毎年5月に特別礼拝を行っていますが、今年は16日（金）、講師に永野貴志子氏を招いて礼拝を行いました。永野さんは高等部21期生で、現在ゴスペル歌手として活躍されています。当日は高等部時代の話から、留学、洗礼を受けた話まで、得意のゴスペルの歌を交えて興味深く話して下さいました。讃美歌は、「主われを愛す」、「いつくしみ深き、友なるイエスは」、「アメイジンググレイス」の3曲を独特のゴスペル調で歌ってくださいました。在校生たちは先輩である永野氏の歌と話に聞き入っていました。

○伝道週間礼拝

6月9日～13日の伝道週間には、講師に経堂緑岡教会牧師の松本敏之氏をお招きました。松本先生は派遣宣教師としてブラジルに7年間おられた方で、その経験を通して高校生たちに3回に渡り素晴らしいメッセージを語ってくださいました。

『いかに生きるか』と言う総主題で、「ひとりで立つ」、「賜物を生かす」、「ともに生きる」（マタイ福音書25章1～13）、と言うことを興味深く話して下さいました。

○グリーンキャンプ

今年はグリーンキャンプを新しくアジア学院（栃木県西那須野）で7月23日～25日に行います。アジア学院は農村指導者養成専門学校で、アジア各国からの留学生が30人程学んでいます。ここで私たちも農業、養鶏、養豚等食べ物にかかる作業をさせてもらいます。29人の生徒が参加しますが、アジアの学生との交流、農業経験他、貴重な体験を得られることと思います。

（宗教主任 坂上三男）

短大より

今年のサマーキャンプは7月22日（火）から24日（木）まで、短大中軽井沢寮で行いました。テーマは「平和を実現する人々は——何のために戦うのか」でした。特別講師に兼任講師でジャーナリストの永井清陽先生、聖書研究講師に聖ヶ丘教会牧師で兼任講師の山北宣久先生をお迎えしました。参加学生は去年よりも多く34名、学内の教員は9名が参加しました。3日間と短い日程ですが、講演や聖書研究などの学びのほかに、1日目はバーベキューやすいか割り、2日目には中軽井沢駅近くの沓掛学荘（児童福祉施設）で1時間ほど

掃除などのミニワークを行い、午後の自由時間には軽井沢にサイクリングに出かけたりしました。参加者全員が交流できる充実したプログラムでした。今年は短大工事のため、職員が参加できず先生方にはご迷惑をおかけしました。新任の3名の先生方にもご参加ご協力いただき、学生と一緒にひとつのキャンプをつくることができて本当によかったです。今回参加できなかった方も、冬のキャンプは、1月31日（土）～2月2日（月）に、伊豆修善寺の天城山荘で行いますので、ぜひご参加下さい。後期はクリスマス行事などキリスト教に触れる機会がたくさんあります。どうぞお気軽に宗教センターをご利用ください。

○ランチタイムコンサート（学生部共催）

10月14日（火）12時30分～13時20分（3時限は短縮）
場 所 短大礼拝堂
演 奏 今村友子（ピアノ）

○青山祭開会礼拝

11月1日（土）9時30分～10時
説 教 口バート・タヒューン（宣教師）
場 所 短大礼拝堂

○第39回短大チャペル・コンサート（青山祭期間中）

11月1日（土）14時～16時
出 演 短大聖歌隊、短大ハンドベル・クワイア、ゴスペルグループ他
場 所 短大礼拝堂

○創立記念礼拝

11月12日（水）12時30分～13時
場 所 短大礼拝堂
説 教 者 学院宗教部長 東方敬信

○青山学院クリスマス・ツリー点火祭

11月28日（金）17時～17時45分
場 所 クリスマス・ツリー前
＊雨天の場合は青学講堂

○クリスマス礼拝

12月10日（水）13時～14時30分（3時限は休講）
場 所 青山学院講堂

○クリスマス・チャペル・コンサート

12月19日（金）18時～19時30分
場 所 短大礼拝堂
出 演 短大聖歌隊、短大ハンドベル・クワイア、ゴスペルグループ

○天城冬の集い（天城山荘）

1月31日（土）～2月2日（月）
(短大宗教活動センター 向野理恵子)

大学より

前期実施された主な大学宗教行事及び、後期予定行事

○平和を祈るつどい

期　日 4月17日(木)
場　所 ガウチャー記念礼拝堂
参 加 数 46名

○ランチタイム・コンサート

◇青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂
① 期日 5月26日(月)
演奏者 鶩 晶子
② 期日 6月26日(木)
演奏者 飯 靖子
◇相模原キャンパス ウェスレー・チャペル
① 期日 5月23日(金)
演奏者 岡井 晃
② 期日 6月2日(月)
演奏者 ジョン・カミツカ
③ 期日 7月3日(木)
演奏者 筒井淳子

○東北学院大学との合同チャプレン会議

期日・場所 7月18日(金) 相模原キャンパス
7月19日(土) 青山キャンパス
主　題 「キリスト教大学に於ける学際教育と研究」
○清里サマー・カレッジ

期　日 7月31日(木)～8月2日(土)
場　所 大学八ガ岳寮
講　師 関 正勝氏(立教大学教授・聖公会神学院校長)
主　題 「命の尊厳を求めて — 競合から共生社会へ、
わたしたちにできること —」

参加者数 84名(内、学生参加者68名)

○相模原キャンパス開学記念

◇速水 優氏(前日銀総裁) 講演会
期　日 10月30日(木) 15時～16時30分
場　所 相模原キャンパス ウェスレー・チャペル
◇オックスフォード大学ニュー・カレッジ聖歌隊コンサート
期　日 12月17日(水) 時間未定
場　所 相模原キャンパス ウェスレー・チャペル
(宗教センター事務室 田中健夫)

編集後記

「ジョン・ウェスレー生誕300年」と「相模原キャンパス開学」という二つの感謝すべき事柄を特集しました。ページ数は限られていますが、多くの方々の思いをお伝えできました。
ご執筆下さった先生方、学生の皆様に心から感謝いたします。
青山学院がこのことを深く心に記念し、建学の精神に堅く立て、21世紀もその使命を果していきますよう、学院に係るすべての方々のお祈りを心からお願い申し上げます。

(石丸)

本部より

今年はジョン・ウェスレー生誕300年記念の年にあたり、例年の行事以外に学院主催として前期には下記の行事が実施され、また後期にも予定されている。

○イースター音楽礼拝

期　日 4月21日(月)
場　所 ガウチャー記念礼拝堂
出 席 者 62名

○ジョン・ウェスレー生誕300年記念行事

◇ジョン・ウェスレー生誕記念礼拝
期　日 5月24日(土)
説　教 鈴木有郷氏 青山学院宣教師・大学宗教主任
出席者数 150名
◇ジョン・カミツカ氏 ピアノ演奏会
期　日 5月31日(土)
場　所 ガウチャー記念礼拝堂
◇「ジョン・ウェスレー生誕300年記念カード」作成
◇「ジョン・ウェスレー生誕記念垂幕」設置
◇速水 優氏(前日銀総裁) 講演会
期　日 10月21日(火) 18時～19時30分
場　所 総研ビル12階 大会議室
◇オックスフォード大学ニュー・カレッジ聖歌隊コンサート
期　日 12月18日(木) 時間未定
場　所 ガウチャー記念礼拝堂
○「おーる・あおやま・あーとてん」
期　間 6月16日(月)～27日(金)
場　所 女子短期大学 ギャラリー
出品者 幼稚園、初等部、中等部、高等部、短大、大學

フォーラム

「キリスト教は美術様式をいかに変容させたのか — ラヴェンナのモザイクに見られる初期キリスト教美術の様式変遷 —」

期　日 6月20日(金)
場　所 総研ビル第19会議室
講　師 松浦弘明氏(多摩美術大学助教授・美術史家)
出席者 63名

(宗教センター事務室 田中健夫)

Wesley Hall News 第77号

発行 青山学院宗教センター 宗教部長 東方敬信
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-6537(ダイヤルイン)
URL:<http://www.cc.aoyama.ac.jp/user/agcac/>
E-mail.agcac@cc.aoyama.ac.jp
編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会
印刷 万全社